



## AnyConnect HostScan

AnyConnect ポスチャ モジュールにより、AnyConnect Secure Mobility クライアントはホストにインストールされているオペレーティングシステム、マルウェア対策、ファイアウォールの各ソフトウェアを識別できます。この情報は、HostScan アプリケーションによって収集されます。ポスチャ アセスメントでは、ホストに HostScan がインストールされている必要があります。

- [HostScan の前提条件](#) (1 ページ)
- [HostScan のライセンス](#) (2 ページ)
- [HostScan パッケージ](#) (2 ページ)
- [HostScan のインストールまたはアップグレード](#) (2 ページ)
- [HostScan の有効化または無効化](#) (3 ページ)
- [ASA で有効になっている HostScan バージョンの表示](#) (4 ページ)
- [HostScan のアンインストール](#) (4 ページ)
- [グループ ポリシーへの AnyConnect フィーチャ モジュールの割り当て](#) (5 ページ)
- [HostScan の関連マニュアル](#) (7 ページ)

## HostScan の前提条件

AnyConnect Secure Mobility Client をポスチャ モジュールとともに使用するには、最低でも次のような ASA コンポーネントが必要です。

- ASA 8.4
- ASDM 6.4

次の AnyConnect 機能は、ポスチャ モジュールをインストールする必要があります。

- SCEP 認証
- AnyConnect テレメトリ モジュール

ポスチャモジュールのインストールでサポートされるオペレーティングシステムについては、『[Supported VPN Platforms, Cisco ASA Series](#)』を参照してください。

## HostScan のライセンス

次に、HostScan の AnyConnect ライセンス要件を示します。

- AnyConnect Apex
- AnyConnect VPN Only

## HostScan パッケージ

HostScan パッケージを ASA にスタンドアロンパッケージ **hostscan-version.pkg** としてロードすることができます。このファイルには、HostScan ソフトウェアとともに、HostScan ライブラリおよびサポート表が含まれています。

## HostScan のインストールまたはアップグレード

この手順では、ASA のコマンドライン インターフェイスを使用して HostScan パッケージをインストールまたはアップグレードし、有効にします。

始める前に



- (注) HostScan バージョン 4.3.x 以前から 4.6.x 以降にアップグレードしようとしている場合、以前に確立した既存の AV/AS/FW DAP ポリシーおよび LUA スクリプトがすべて HostScan 4.6.x 以降と非互換であるという事実に起因するエラー メッセージが表示されます。

設定を適応させるために実行する必要があるワンタイム移行手順が存在します。この手順では、このダイアログボックスを閉じて、この設定を保存する前に HostScan 4.4.x と互換になるように設定を移行します。この手順を中止し、『[AnyConnect HostScan 4.3.x to 4.6.x Migration Guide](#)』で詳細な手順を参照してください。つまり、移行するには ASDMDAP のポリシーページに移動して、互換性のない AV/AS/FW 属性を確認して手動で削除してから、LUA スクリプトを確認し、書き換える必要があります。

- ASA にログオンし、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。グローバル コンフィギュレーション モードでは、ASA は `hostname(config)#` プロンプトを表示します。
- `hostscan_version-k9.pkg` ファイルを ASA にアップロードします。

## 手順

---

**ステップ 1** webvpn コンフィギュレーション モードを開始します。

例 :

```
hostname (config) # webvpn
```

**ステップ 2** HostScan イメージとして指定するパッケージのパスを指定します。スタンドアロンの HostScan パッケージ、または AnyConnect セキュア モビリティ クライアント パッケージを HostScan パッケージとして指定することができます。

*hostscan image path*

例 :

**ステップ 3** 前の手順で指定した HostScan イメージを有効にします。

例 :

```
ASAName (webvpn) #hostscan enable
```

**ステップ 4** 実行コンフィギュレーションをフラッシュメモリに保存します。新しいコンフィギュレーションがフラッシュメモリに正常に保存されると、[OK] メッセージが表示されます。

例 :

```
hostname (webvpn) # write memory
```

**ステップ 5**

---

## HostScan の有効化または無効化

これらのコマンドは、ASA のコマンドライン インターフェイスを使用して、インストール済みの HostScan イメージを有効または無効にします。

### 始める前に

ASA にログオンし、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。グローバル コンフィギュレーション モードでは、ASA は hostname(config)# プロンプトを表示します。

## 手順

---

**ステップ 1** webvpn コンフィギュレーション モードを開始します。

例：

**webvpn**

**ステップ2** ASA からスタンドアロンの HostScan イメージがアンインストールされていない場合、このイメージを有効にします。

**hostscan enable**

**ステップ3** インストールされているすべての HostScan パッケージの HostScan を無効にします。

(注) 有効になっている HostScan イメージをアンインストールする前に、このコマンドを使用して、HostScan を無効にする必要があります。

**no hostscan enable**

---

## ASA で有効になっている HostScan バージョンの表示

この手順では、ASA のコマンドラインインターフェイスを使用して、有効になっている HostScan のバージョンを特定します。

始める前に

ASA にログインし、特権 EXEC モードを開始します。ASA の特権 EXEC モードでは、表示されるプロンプトは `hostname#` となります。

手順

---

ASA 上で有効になっている HostScan のバージョンを表示します。

**show webvpn hostscan**

---

## HostScan のアンインストール

HostScan パッケージをアンインストールすると、ASDM インターフェイス上のビューから削除されます。これにより、HostScan が有効になっている場合でも ASA による HostScan パッケージの展開が回避されます。HostScan をアンインストールしても、HostScan パッケージはフラッシュ ドライブから削除されません。

始める前に

ASA にログオンし、グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。グローバル コンフィギュレーションモードでは、ASA は `hostname(config)#` プロンプトを表示します。

## 手順

---

**ステップ 1** webvpn コンフィギュレーション モードを開始します。

**webvpn**

**ステップ 2** アンインストールする HostScan イメージを無効にします。

**no hostscanenable**

**ステップ 3** アンインストールする HostScan イメージへのパスを指定します。スタンドアロンの HostScan パッケージが HostScan パッケージとして指定されている場合があります。

**no hostscan image path**

例 :

```
hostname (webvpn) #no hostscan image disk0:/hostscan-3.6.0-k9.pkg
```

**ステップ 4** 実行コンフィギュレーションをフラッシュメモリに保存します。新しいコンフィギュレーションがフラッシュメモリに正常に保存されると、[OK] メッセージが表示されます。

**write memory**

---

# グループポリシーへの AnyConnect フィーチャ モジュールの割り当て

次の手順で、AnyConnect フィーチャ モジュールとグループポリシーを関連付けます。VPN ユーザが ASA に接続するときに、ASA はこれらの AnyConnect フィーチャ モジュールをエンドポイント コンピュータにダウンロードしてインストールします。

## 始める前に

ASA にログオンし、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。グローバル コンフィギュレーション モードでは、ASA は hostname(config)# プロンプトを表示します。

## 手順

---

**ステップ 1** ネットワーク クライアント アクセス用の内部グループポリシーを追加します。

**group-policy name internal**

例 :

```
hostname (config) # group-policy PostureModuleGroup internal
```

**ステップ 2** 新しいグループ ポリシーを編集します。このコマンドを入力した後は、グループ ポリシー コンフィギュレーション モードのプロンプト `hostname(config-group-policy)#` が表示されます。

**group-policy name attributes**

例 :

```
hostname(config)# group-policy PostureModuleGroup attributes
```

**ステップ 3** グループポリシー `webvpn` コンフィギュレーションモードを開始します。このコマンドを入力した後は、次に示す ASA のプロンプトが表示されます。 `hostname(config-group-webvpn)#`

**webvpn**

**ステップ 4** グループ内のすべてのユーザに AnyConnect フィーチャ モジュールがダウンロードされるように、グループ ポリシーを設定します。

**anyconnect modules value AnyConnect Module Name**

`anyconnect module` コマンドの `value` には、次の値の 1 つ以上を指定することができます。複数のモジュールを指定する場合は、値をカンマで区切ります。

値	AnyConnect モジュール/機能名
dart	AnyConnect DART (診断およびレポート ツール)
vpngina	AnyConnect SBL (ログイン前の起動)
websecurity	AnyConnect Web セキュリティ モジュール
telemetry	AnyConnect テレメトリ モジュール
posture	AnyConnect ポスチャ モジュール
nam	AnyConnect ネットワーク アクセス マネージャ
none	グループ ポリシーからすべての AnyConnect モジュールを削除する場合に使用します。
profileMgmt	AnyConnect 管理トンネル VPN

例 :

```
hostname(config-group-webvpn)# anyconnect modules value websecurity,telemetry,posture
```

モジュールの 1 つを削除するには、保持したいモジュールの値だけを指定したコマンドを再送信します。たとえば、このコマンドは Web セキュリティ モジュールを削除します。

```
hostname(config-group-webvpn)# anyconnect modules value telemetry,posture
```

**ステップ 5** 実行コンフィギュレーションをフラッシュ メモリに保存します。

新しいコンフィギュレーションが正常にフラッシュメモリに保存されると、[OK] というメッセージが表示され、次に示す ASA のプロンプトが表示されます。hostname(config-group-webvpn)#  
**write memory**

---

## HostScan の関連マニュアル

HostScan がエンドポイント コンピュータからポストチャクレデンシャルを収集した後は、情報を活用するために、ダイナミック アクセス ポリシーの設定、Lua の式の使用などのサブジェクトを理解する必要があります。

これらのトピックの詳細については、『[Cisco Adaptive Security Device Manager Configuration Guides](#)』を参照してください。また、AnyConnect クライアントでの HostScan の動作の詳細については、『[Cisco AnyConnect Secure Mobility Client Administrator Guide](#)』を参照してください。

